

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 9 月 7 日 (2006.9.7)

【公表番号】特表 2005-524648 (P2005-524648A)

【公表日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【年通号数】公開・登録公報 2005-032

【出願番号】特願 2003-570793 (P2003-570793)

【国際特許分類】

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 31/135 (2006.01)

A 6 1 K 31/137 (2006.01)

A 6 1 K 31/222 (2006.01)

A 6 1 K 31/4458 (2006.01)

A 6 1 K 31/4468 (2006.01)

A 6 1 K 31/4535 (2006.01)

A 6 1 K 31/485 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 31/135

A 6 1 K 31/137

A 6 1 K 31/222

A 6 1 K 31/4458

A 6 1 K 31/4468

A 6 1 K 31/4535

A 6 1 K 31/485

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 43/00 1 2 3

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 7 月 21 日 (2006.7.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

担体ペプチドの C 末端に共有結合したヒドロコドン及びオキシコドンから選択されるオピオイドを含む医薬組成物であって、

前記担体ペプチドが 10 個未満のアミノ酸を含む医薬組成物。

【請求項 2】

前記医薬組成物は、吸入又は注射した際、放出に対して抵抗性がある経口投与に適し、経口投与後に放出される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記担体ペプチドは、6 個のアミノ酸を含む、請求項 1 又は 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記担体ペプチドは、5 個のアミノ酸を含む、請求項 1 ないし 3 のうち何れか一項に記

載の組成物。

【請求項 5】

前記担体ペプチドは、4 個のアミノ酸を含む、請求項 1 ないし 4 のうち何れか一項に記載の組成物。

【請求項 6】

前記担体ペプチドは、3 個のアミノ酸を含む、請求項 1 ないし 5 のうち何れか一項に記載の組成物。

【請求項 7】

前記担体ペプチドは、2 個のアミノ酸を含む、請求項 1 ないし 6 のうち何れか一項に記載の組成物。

【請求項 8】

前記担体ペプチドが、式 X X X A A 又は X X A A A を有し、ここで、X は、A r g , L y s , H i s , P r o 及び M e t 以外の任意のアミノ酸から選択され、A は T y r , P h e , T r p 又は L e u から選択される、請求項 1、2 又は 4 のうち何れか一項に記載の組成物。

【請求項 9】

前記オピオイドは、アミノ酸に結合している、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 10】

治療効果を得るが、実質的な陶酔効果を得ないように、患者にオピオイドを送達する経口投与医薬の製造のための、請求項 1 ないし 9 のうち何れか一項に記載の組成物の使用。

【請求項 11】

疼痛の治療のため、患者にオピオイドを送達する経口投与医薬の製造のための、請求項 1 ないし 9 のうち何れか一項に記載の組成物の使用。

【請求項 12】

担体ペプチドの C 末端に共有結合したオピオイドを含む医薬組成物であって、前記担体ペプチドは、10 個未満のアミノ酸を含む医薬組成物。